

はじめに

この報告書は、独立行政法人国立特殊教育総合研究所知的障害教育研究部の一般研究「知的障害のある子どもの担任教師と関係者との協力関係推進に関する研究—個別の指導計画の作成に焦点を当てて—」（平成14～15年度）の研究成果をとりまとめたものです。この研究を担当してきた重度知的障害教育研究室では、平成8年度から個別の指導計画についての研究を進めてきました。一連の研究の中で、子どもの実態把握方法、実態把握から個別の指導目標を絞り込むプロセス、担任教師チームによる事例検討会の持ち方、保護者の思いを指導計画に反映させる具体的手順、個別の指導計画の様式、個別の指導計画を授業に活かすプロセスなどをとりあげてきましたが、当初からの課題であり残された課題でもあったのが、担任教師と関係者との協力関係推進のための具体的方法を開発することでした。このことは、個別の指導計画作成プロセスが本質的にperson-centered planningであり、障害のある子どもが教室場面にとどまらない多くの支援ニーズをもっていることから、必然の研究課題でした。この課題を中心にとりまとめたのがこの報告書です。

この報告書は五部構成になっています。第一部では、研究分担者及び研究協力者からの論説という形で、協力関係推進の意義や必要性、それをめぐる背景、協力関係を推進するグループワーク、ワークショップの具体的方法を示しています。第二部では、研究協力校や本研究所の研修でこれらの方法を取り入れた個別の指導計画作成シミュレーションを実践した事例を示しています。また、第三部では特殊教育センター等での個別の指導計画に関する研修の実施状況調査について、第四部では協力関係推進に関する研修を行っている神奈川県総合教育センターの事例について報告しています。そして第五部では、総合考察として、担任教師と関係者との協力関係推進をめぐる諸課題を整理し、協力関係推進に関わる具体的方法論やその研修の在り方について提言を試みています。

ご一読いただき、忌憚のないご意見をいただけるようお願い申し上げるとともに、この報告書を障害のある子ども一人一人のニーズに応じた教育的対応に役立てていただければ幸いに存じます。

私たちが所属している知的障害教育研究部は、平成16年4月1日に行われる当研究所の新たな組織編成によって、その名称が消えます。30有余年にわたり、私たちの研究実施において多大なご協力をいただいたことを深謝するとともに、今後も知的障害教育研究にさらなるご協力をいただけるようお願い申し上げます。

平成16年3月

独立行政法人国立特殊教育総合研究所
知的障害教育研究部長 小 塩 允 護